

復活節礼拝

司式 雨宮 信長老

奏楽 門脇陽子長老

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 87:1 全地よ神に向かい喜びたたえよ。御名(みな)の栄光(さかえ)をほめよ。その誉(ほま)れ歌え。

御神(みかみ)に告げまつれ。み業(わざ)おそるべし、主はみ力をもて 仇(あだ)を伏(ふ)させた も
う。 アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

かみ 神よ、わたしを憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか おんあわ 深い御憐れみをもって、そむ つみ 背きの罪をぬぐい去つ
ててください。わたしのとがをことごとくあら 罪から清めてください。わたしはとがのうちにうみおとされ、
はは み 母がわたしを身ごもったときも、わたしはつみのうちにあったのです。わたしをあら ゆき 洗ってください。雪よりも
しろく 白くなるように。神よ、わたしの内にきよ 清い心を創造し、あたらし 新しく確かな霊をさずけてください。すく よるこ 救いの喜び
をふたたび わたしにあじわわせ、じゆう 自由の霊によってささ 支えてください。主よ、わたしのくちびる ひら 開いてください。この
くち 口は、あなたのさんび 賛美を歌います。 しゅ イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、なにももの かみ 何者をも神としてはならない。
2. あなたはじぶん 自分のためにきざ 刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。
い。それにつか 仕えてはならない。
3. あなたは、あなたのかみ 神、しゅ 主の名を、みだりにとな 唱えてはならない。しゅ 主は、
み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. あんそくにち 安息日をおぼえて、これをせい 聖とせよ。
5. あなたのちち 父とはは 母をうやま 敬え。
6. あなたはころ 殺してはならない。
7. あなたはかんいん 姦淫してはならない。
8. あなたはぬす 盗んではならない。
9. あなたはりんじん 隣人についてぎしやう 偽証してはならない。
10. あなたはりんじん 隣人のいえ 家をむさぼってはならない。りんじん 隣人のつま 妻、またすべてりんじん 隣人
のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 148:1 救いの主は

すくいぬしはーハーーーーレールーヤ よみがえりたもうーハーーーーレールーヤ
かちどきあげてーハーーーーレールーヤ みーなーをたたえようーハーーーーレールーヤ
あーめん
アーメン

共同の祈禱 祈禱書 15 復活節第一主日 主の復活

ちから しゆ かみ
力の主なる神さま、あなたの御子、わたしたちの主イエス・キリストの、えいこう み ふっかつ おぼ
て、御名を心からほめたたえます。

あなたは、御力によって、主イエスを死人の中から復活させられました。墓からよみがえられた主
は、わたしたちを罪の縄目と死の恐れから解放し、勝利を宣言してくださいました。

あなたは、全て彼を信じる者に、神の子らの、栄光に輝く自由にあずかる特権をお与えくださり、
えいえん いのち やくそく
永遠の命を約束してくださいましたことを感謝します。

今、よみがえりの主が、わたしたちと共にいますことを覚えて、御名を心から賛美します。

(Iコリント15、ローマ6～8)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 盛岡 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ヨハネ福音書20章1～9節 (新約聖書209頁)

説教・祈祷 「イエスを見る」 杉山昌樹牧師

* 賛美歌 151:1.2

1. よろずのたまよこべや、主イエスよみにかちませば、しのちからはやうせはて、
ひとのいのちかぎりなし。

2. 主はさかえのみぎにまし、みつかいたちたえにうとう。 主イエスしにかちませば、
ひとはとわにいくべしと。アーメン

聖餐式

* 主の祈り 祈祷書1

てん われ ちち
天にまします我らの父よ

ねが み な
願わくは御名をあげさせたまえ

みくに き みこころ てん ち
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

われ にちよう かに きよう あた
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

われ つみ おか もの われ ゆる われ つみ ゆる
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

われ こころ あ あく すく いだ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

くに ちから さか かぎ なんじ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 64 みめぐみあふるる

みめぐみあふるる父、み子、みたまの ひとりのみ神に みさかえつきざれ。アーメン

* 祝 祷

後 奏 (黙祷)

報 告 雨宮 信長老 (司会・受付 次週：古澤兵庫長老)

本日 受付 1階：若月学・森永美保執事 2階：加藤良明執事 / ZOOMホスト・録音：森川
莞太

次週 受付 1階：大日南信也・藤井牧子執事 2階：大日南隆夫執事 / ZOOMホスト・録
音：森永翔馬

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

ヨハネ20：1-10 「イエスを見る」

四つの見る

今日の聖書は復活の日の朝の出来事です。ここで一つの言葉に注目します。それは「見る」という言葉です。1節ではまだ暗いうちにマリアが墓を見ます。5節ではもう一人の弟子と書かれている、おそらくヨハネだろうと言われているその弟子が、墓の中をのぞいて見えています。6節ではペテロが墓の中を見えています。そして、8節では再びヨハネが墓の中で見て信じています。このことから分かるように、ここでは少しずつ見ることが信仰に近付いていく様子が語られています。それは、わたしたちが、神様を、イエス様を信じるということ、信仰を持つという場合の中心的な事柄への接近です。

闇の中

この書き出しはすでに確認しましたように、週の始めの日、今でいう日曜日の早朝まだ暗いうちとるところから始まります。「まだ暗いうちにマグダラのマリアは墓に行った」とある通りです。この暗さは、ある意味では、この時の状況あるいは、マリアや他の弟子たちの思いをも表しているのかもしれませんが、そもそもこの時、マリアあるいはマリアたち、多分他にも女性たちがいたようですが、その彼女たちが墓にやってきたのは葬りのためだったことが他の福音書に書かれています。イエス様は、死んでしまわれた。これが彼女たちの前提です。そうであるからこそ、彼女は、少々早合点のように見えますが、墓の蓋をする石が取り除かれているのを見て、「主が墓から取り去られました」と理解したのでしょう。死んでしまわれた方に対しては、丁寧な葬りをする以外にできることはない、自分たちの嘆きを鎮められるのは時しかない、このような思いを私たちもまた知らないわけではありません。親しいものが失われ、もう帰ってこない、その絶望という暗闇の中で見えてくるものは、更に悲しい墓荒らしという現実だった、のかもしれませんが、しかし、この所が朝早くであったことは、大切なことです。なぜなら夜は開けるからです。やがて光が射しこむからです。

朝に向かう

マリアが弟子たちの所に走り、弟子たちが墓へと走る、その途中でおそらく朝は明けて行ったことでしょう。もちろん、この時点で二人の弟子も、何か特別な期待を持っていたのではないでしょう。むしろ、空の墓という意外な事実を告げられ、何ができるかわからないけれども、とにかく事実を確かめよう、との思いでひたすら先を急いだのでしょう。或いは、マリアの言葉にあるように、ある人たちがイエス様の遺体を持ち去ってしまったのだとしたら、何か対処しなければならない、そんな思いもあったかもしれません。しかし、これは、少し読み込みすぎなのかもしれませんが、わたしは、このようにして、彼らもまた、墓へと招かれているようにも見えます。それは、この墓にある事実を彼らのはっきりと見るためです。そして、彼らはそこで、朝の光の中で改めて、墓と向き合うことになるのです。ここでは、二人して走っていたけれどもヨハネの方が先に着いた、とわざわざ書いてあります。墓と向き合い、墓の中に何を見るのか、それが弟子たちにに問われているように見えます。それは私たちもまた同じであるのかもしれませんが、ここでは、薄紙をはぐように、墓の様子が段階を踏んで描かれています。

空の墓を見る

先に着いたヨハネはしかし、墓の中に入りません。何かためらいがあったのでしょうか。あるいはペテロを待った方がよいと思ったのかもしれませんが、いずれにしても、彼は、かがんで墓の中を覗き込みます。そして、遺体を巻いていた亜麻布だけがあることを見つけ出します。ここで、ヨハネは墓の中を見えています。これは、1節でマリアが、墓の蓋をする石が転がしてあるのを見た、というところに続く二度目の「見た」です。ここでは明らかにマリアよりも一歩進んで、墓の外からではありますが、墓の中を見えています。まだなお、内部の様子ははっきりと確認されていません。しかし、そこでどうもマリアの言ったことは本当らしい、とは気が付いたでしょう。吊いのための布だけがあつて、遺体はどうやらないらしい、というくらいは見て取れたはずで。そして、墓と向き合う、という意味では、明らかにマリアよりも前進しているのです。墓が空っぽらしいということをしつかりと目で見て確かめているからです。

しかしわからない

さらに、少し遅れて、今度はペテロが墓にたどり着きます。そして、ペテロはさらに一步進んで、大胆に墓の中に入っていきます。ここでもまた、ヨハネよりも前進していることがわかります。そして、墓の中の観察もまた、よりはっきりとしたものになっています。6節後半から7節にかけて、今度はかなり克明に墓の内部の様子が描かれています。そこでは二つのことが確認されています。一つは、ヨハネが見た通り、イエス様の遺体を巻いていた亜麻布が、置いてあるのをしっかりと見ていることです。それからもう一つは、イエス様の頭を覆っていたはずの、覆い布が体を包んでいた亜麻布とはかなり離れたところに、まるで脱いで畳んだかのように、丸めておいてあるのを見た、と続きます。ここではっきりとしてくることがあります。それは、第一に、イエス様の遺体は確かに墓の中にはなかったという事実です。それから、どうもこれは、単純な墓荒らしでもなさそうであるということです。すなわち、イエス様の遺体はまるで、自分で出ていったかのように、忽然と消えてしまっているのです。このように、墓を少し離れたところから見ることは始まり、墓を覗き込み、更に墓の中に入って状況をしっかりと確認する、というようにして、墓を見るという出来事は進んでいきます。そこで確認されたのは、しつこいようですが、墓は全くからであったという事実でした。そして問題は、この事実から何を見つけ出すのかです。

我々は何を見るか

所で、今日はこの新約聖書の言葉と一緒に詩編16編を読みました。何でこのところを読んだのか、と言いますと、この詩編こそがイエス様のご復活を表している箇所と言われているからです。それは何よりも、9節にある通りです。まずはヨハネの福音書の方の9節をもう一度読んでみます。「イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。」ここに聖書の言葉とあります。当然この時代の聖書は今で言いますところの旧約聖書です。その中でもすでにお話しした通り、詩編16編がここで意図されています。その詩編の言葉はこうです。

「あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず 命の道を教えてください。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い／右の御手から永遠の喜びをいただきます。」もちろん、これは詩人の言葉です。神様の守りを祈り求める詩人が、祈りの中で、たどり着いた言葉です。神様は決して私を捨ててはおかれぬ、神様は、決して私を黄泉に渡されぬ、むしろ、命の道を与えて下さる、この信仰を見つけ出したのです。けれどもヨハネは、この詩人の言葉は、イエス様の復活によって完全に実現した、と言いたいのです。そして、その意味で、この時ペテロとヨハネは、まだ、み言葉と目の前の現実がクリアに結びつくようにしては、この空の墓の事実と、聖書の言葉を結び付けて見れていなかったでしょう、というのです。しかし、それで終わりではないのです。

見て信た

むしろ、み言葉を正しく、それこそみ旨に適って読むために、決して避けて通れないことがあります。それは、当然と言えばあまりに当然すぎるのですが、信仰です。クリアな聖書理解の大前提として、信仰があります。そして、この所で最も大切なのは、おそらく、ヨハネによって引き起こされている、四回目の見る、です。8節はこうでした。「それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。」ついにヨハネもまた、墓の中に入りました。そして、空っぽの墓という現実と向き合いました。そして、この時事を見たときに、同時に信じた、と続きます。大変シンプルな箇所です。しかし、何をどう信じたのか、書いてくれていませんので、ある意味では難しい箇所かもしれません。けれども、これはあれこれと、理屈をこねるところではないはずで、むしろ、このヨハネの身に起きたことこそが、私たちにとってもまた、大切であるということを確認したいのです。

暗闇ではなく、光の中で

そこで、もう一か所聖書を読みます。ヨハネの16章にある言葉です。「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。」(16:16) これ

は、イエス様が弟子たちに向かって語られる最後の説教の中の言葉です。まるでなぞかけのように聞こえなくもありませんけれども、言わんとするところは単純です。それは、「見る」という言葉が二重の意味であることが分かりますと納得できます。しばらくするともう私を見なくなる、というのは、言葉通りの事実関係を語る言葉です。イエス様が肉体を持ったお姿ではもう弟子たちには見えなくなる、というのです。一方で、「しばらくすると、私を見る」というのは、別の形で、霊に導かれて、信仰の目をもって復活のイエス様を見るようになる、という意味です。

見えないものを見る

私たちもまた、この会堂において、生きて動き回っているイエス様、肉体を持ったイエス様を見ることはありません。では、私たちは、ここに集まって何を見ているのでしょうか。丁度ペテロたちが空っぽの墓を見たように、何もいない空っぽの会堂を見るために集まっているのでしょうか。そうではありません。私たちは、イエス様を見るために集まっています。イエス様を信じるために集まっています。見えない方を見るために、礼拝をしています。そして、私たちにとってもまた、決定的に大切なのは、この時のヨハネのように、空っぽの墓を見て信じる、この単純な信仰が与えられることです。

イエスを見る

私たちはすでに、この復活のイエス様を見出す信仰を与えられています。それゆえ、私たちの礼拝は、このイエス様を見つけ出す礼拝です。この礼拝の中に、イエス様がともにいて下さり、そして、イエス様のご栄光がこの場にあふれているのを見て信じる礼拝です。そのようにして、私たちは、毎週の礼拝において、復活のイエス様を見つめ続けるのです。

祈り

父なる神様、このようにして、イエス・キリストの復活を共に祝うときが与えられましたことを感謝します。私たちは、このキリストの御業によって、すでにあなたのものとされています。そしてそれはただ主イエスの御業を信じる信仰が与えられているからです。私たちが、この復活を信じる信仰をさらに確かにされ、復活の喜びをますます豊かにしてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。